

第1学年 算数科学習指導案

平成30年1月31日(水) 5校時
 1年生 男1名 女1名 計2名
 指導者 講師 大石

1 単元名 おおきいかず

2 単元について

- 本単元は、2位数について、個数の数え方や数の読み方、書き方、数の構成などを理解し、数を用いることができるようにする単元である。

学習指導要領には次のように位置付けられている。

第1学年 A数と計算

- (1) ものの個数を数えることなどの活動を通して、数の意味について理解し、数を用いることができるようにする。

イ 個数や順番を正しく数えたり表したりすること。

ウ 数の大小や順序を考えることによって、数の系列を作ったり、数直線の上に表したりすること。

オ 2位数の表し方について理解すること。

カ 簡単な場合についての、3位数の表し方を知ること。

キ 数を十を単位としてみること。

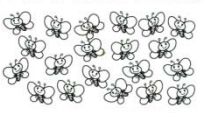
- (2) 加法及び減法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。

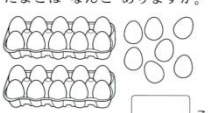
ウ 簡単な場合について、2位数などの加法及び減法の計算の仕方を考えること。

- 本単元の授業に際してのレディネステストの結果は以下のとおりである。

15 おおきいかず

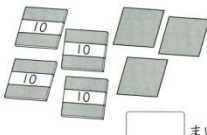
1ねん	くみ	ぼん
なまえ		

1 ちょうは なんびき いますか。

 びき

2 たまごは なんこ ありますか。

 こ

3 □に かずを かきましよう。
 ① 18 20
 ② 12 14
 ③ 5 10

4 おおきい ほうの かずを ○で かこみましよう。
 ① 10 12
 ② 14 17
 ③ 20 18

5 いろがみは なんまい ありますか。

 まい

○つぎの もんだいは、まだ がくしゅうして いません。 ちょうせんして みましよう。

- ・ 1名は全問正解。
- ・ もう1名は3の②の問題を間違えた。(13と記入している)
- ・ 2名とも5の未習問題を解くことができていることから、本単元も、問題なく進めることができると考える。また、新しい問題へ挑戦することへの意欲がある。

- 指導に当たっては、「教える」場面と「考えさせる」場面を明確にすることにより、習熟の時間を十分確保し、学習の内容の定着を図る。

○ 本単元の指導の重点化は以下のとおりである。

- ① 「ふかめる」段階で、「一の位」「十の位」を扱うことによって、十進法の位取りの原理を理解させるために、数え棒を素材とし、10のまとまりをつくったり、10のまとまりをくずすときに操作しやすくする。
- ② 「ふかめる」段階で、「せいかいは」（せいかく・かんたん・いつでも・はやく）にあてはまることがあることに気付かせ、計算の工夫ができるようにする。
- ③ 「たしかめる」段階で、2位数の数の構成を基にして、計算を考えることによって、数の構成の理解を深めさせる。

3 単元の目標

2位数について、個数の数え方や数の読み方、書き方、数の構成などを理解し、数を用いることができるようにする。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none">・10ずつまとめて数えることよきや十進位取り記数法よきに気付き、もの個数を数えたり表したりしようとするができる。・2位数の構成を基に、数の見方や計算の仕方などに活用しようとしている。
数学的な考え方	<ul style="list-style-type: none">・既習の数の表し方の仕組みを基に、2位数の数え方や読み方、書き方などを考え、表現することができる。・10を単位とする見方や数の構成、既習の計算を活用して、簡単な場合の2位数の加減計算の仕方を考え、表現することができる。
技能	<ul style="list-style-type: none">・2位数や簡単な3位数について、個数を数えたり、数を読んだり書いたりすることができる。・簡単な場合の2位数の加減計算ができる。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none">・2位数や簡単な3位数について、数の読み方や書き方、数の構成や大小などを理解することができる。・2位数の数の構成を、加法や減法の式に表せることを理解することができる。

5 本時の学習

(1) ねらい

- 2位数の数の構成（10がいくつ）を基にした減法の計算の仕方を理解し、その計算ができる。


(2) 本校の研究内容との関わり

① 先行学習の充実

- ・予習をすることで、学習内容の見通しをもち、自分の考えを書いたり、発表できたりするのではないかな。

本時の予習内容

- ①問題をうつす
- ②気付きを書く
- ③めあてを考える
- ④解いてみる

ま と め る 5 分 た し か め る 5 分	<p>5 一人学習をする。 ・具体物を操作しながら10の束がいくつあるのか考える。</p> <p>6 考えを発表する。 ・具体物を操作しながら、自分の考えを発表する。</p> <p>・自分たちの考えと教師の考えから類似点・相違点を見付ける。 ※10のまとまりで考えるほうが「せかい」であることに気付く。</p> <p>7 まとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> ㊦ 10のまとまりで、かんがえるとけいさんしやすい。 </div> <p>8 練習問題をする。 教科書P44  に取り組む。</p>	<p>○ 一人学習の前に「本日のメニュー」の確認をする。 本日のメニュー ①他の方法で考える。(かぞえ棒・おりがみ・じしゃく) ②発表の練習をする。</p> <p>○ 予習で考えてきた方法以外での方法で、考えさせる。</p> <p>○ 具体物を操作させ、10がいくつあるのか考えさせる。</p> <p>○ 時間に余裕のある子どもには、他の方法で考えさせる。</p> <p>○ 自分の考えを発表させるだけではなく、一緒に数えたり、「ここまでわかりましたか？」や「～～ありますよね？」等、フォロワーに問いかけ、協働で解決させる。</p> <p>○ フォロワーは、ただ「わかりました」というだけではなく「つまり〇〇さんは△△という考えなんですよ？」等、相手の考えを理解しまとめさせ、協働で解決させる。</p> <p>○ 子どもの考え以外の方法(10のまとまりでない考え方)を教師が提示し、類似点・相違点を確認し、どの方法が「せかい」にあてはまるのか考えさせる。</p> <p>○ 学習したことを振り返り、まとめにつなげさせる。</p>
---	--	--

6 考察

(1) 視点1「先行学習（予習）の充実」について

「自ら課題をもち、主体的に学ぶ姿」の具現化のために、「予習」は効果があったか

〔成果〕

- 予習（やってみるまで）をすることで、調べる段階までができており、すぐに深める段階に入ることができた。
- 導入がスムーズにできた。その分、具体物を操作する時間を確保し、様々な方法で考えることができた。

〔課題〕

- 予習（やってみるまで）しているので、子どもたちのワクワク感が失われているのではないか。
- 予習（やってみるまで）しているので、本時の書く活動が少なかった。

〔改善策〕

- ①学習したことを活用する問題に取り組む。
- ②最後に本時の振り返りをさせる。

（例）

- ① おもったこと・おもしろかったこと
- ② 初めて知ったこと
- ③ なぜそうなったのか
- ④ しりたいこと・しらせたいこと



(2) 視点2「話し合い・対話の充実」について

「人との関わりを図る授業の工夫」について、「ガイド学習」および「学習活動の流れの提示」は効果があったか。

〔成果〕

- 自分の考えを発表するだけでなく、一緒に数えたり相手に問いかけたりすることができた。また、相手の説明を聞いて「つまり、〇〇さんの考えは△△ということですね？」等、相手の考えを理解し協働して対話しながら解決することができた。
- 「本日のメニュー」を提示することで学習の流れを把握し、ガイド役を中心に授業を進めることができた。

〔課題〕

- 相手の意見を聞いて自分の考えを発表する際などの発表の仕方を工夫する。

〔改善策〕

- ①教師が見本となり、発表の仕方を工夫させる。

（例）

- ・「私も〇〇さんと似ていて〜〜〜です」
 - ・「私は〇〇さんとは、少し違って〜〜〜です」
- ②発達段階に応じた話型について共通理解を図る。